

聖書日課 『からし種』 2020.11.22-11.29

<p>11月22日 (日)  詩編 107編</p>	<p>「主に感謝せよ。主は慈しみ深く／人の子らに驚くべき御業を成し遂げられる」(15節)。イスラエルの人びとがたどってきた荒れ野の旅路を振り返る時、彼らはただただ「恵み深い主に感謝せよ」と賛美せざるをえなかった。私たちそれぞれの人生の旅路にも「恵み深い主」の足あとが刻まれている。主の御業への感謝をたずさえて、共に主の日の礼拝をささげよう。</p>
<p>23日 (月)  詩編 108編</p>	<p>「神よ、わたしの心は確かです。わたしは賛美の歌をうたいます。『わたしの誉れよ／目覚めよ、豎琴よ、琴よ。わたしは曙を呼び覚まそう』」(2-3節)。詩人が見上げている夜の暗闇には朝が来る気配が見えない。しかし詩人の心は確かだ。必ず神の慈しみの光が世界を変えることを信じ、曙を呼び覚ます賛美に立ちあがる。わたしもこの賛美に立つ者にされて。</p>
<p>24日 (火)  詩編 109編</p>	<p>「主は乏しい人の右に立ち／死に定める裁きから救ってくださいます」(31節)。詩人は、愛しても敵意と憎しみを返され、善意を示しても悪意で返され(4-5節)、その心は槍で刺し貫かれたように深く傷ついている(22節)。しかし主はその訴えを確かに聞いてくださり、祝福と正しい裁きをもって立ち上がらせてくださる。この主に心を向けて歩む信仰をいただいて。</p>
<p>25日 (水)  詩編 110編</p>	<p>「主はあなたの力ある杖をシオンから伸ばされる。敵のただ中で支配せよ」(2節)。イスラエルは常にその周囲を敵に囲まれていた。不安と恐れに悩まされながら、王として支配することは果たして可能なのだろうか。「わたしの右の座に就くがよい」(1節)と語りかける主の力のみがそれを可能し、「大河から水を飲み、頭を高く上げる」(7節)力を与えてくださる。</p>

聖書日課 『からし種』 2020.11.22-11.29

<p><b>26日</b> <b>(木)</b></p> <p>詩編 111編</p>	<p>「主を畏れることは知恵の初め。これを行う人はすぐれた思慮を得る。主の賛美は永遠に続く。」(10節)。神に対して恐怖の「恐れ」ではなく、敬慕を込めた「畏れ」をもつこと。私たち一人ひとりを十字架の愛をもって大切に取り扱ってくださる主の御言葉を心の真ん中に受けていくこと。その時、私たちは永遠に続く賛美をうたう者とされていく。</p>
<p><b>27日</b> <b>(金)</b></p> <p>詩編 112編</p>	<p>「ハレルヤ。いかに幸いなことか／主を畏れる人／主の戒めを深く愛する人は」(1節)、「まっすぐな人には闇の中にも光が昇る。憐れみに富み、情け深く、正しい光が」(4節)。今日、主への畏れをもって主の語りかけを深く愛することを教えてください。そして、闇の中に昇る、憐れみ深く正しい主の光に照らされて「ハレルヤ」と主を賛美する者とさせてください。</p>
<p><b>28日</b> <b>(土)</b></p> <p>詩編 113編</p>	<p>。「(主は)弱い者を塵(ちり)の中から起こし／乏しい者を芥(あくた)の中から高く上げ／自由な人々の列に／民の自由な人々の列に返してくださる」(7-8節)。主イエスが生きた証しされた神の愛に触れた時、人びとは苦難の中から起き上がり、自分の足で歩きだし、主を賛美する者に変えられていった。その主の御名をわたしも賛美する者とされて。</p>
<p><b>29日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 114編</p>	<p>「地よ、身もだえせよ、主なる神の御前に／ヤコブの神の御前に／岩を水のみなぎるところとし／固い岩を水のあふれる泉とする方の御前に。」(7-8節)。主なる神の前では、海も川も山も丘も喜び踊る。エジプトの奴隷として生きてきたイスラエルの人々が、主に導かれて旅をするとき、新しい土地での新しい生活に心が躍っていたのだろうか。</p>